

## 日本知財学会第 10 回年次学術研究発表会 セッションレポート

1. 作成者	知財 PeCo 西川延良（アイコム株式会社 ならやま研究所） 西尾允仁（日本電産株式会社 知的財産部）
2. テーマ	企画セッション 「文系・理系の大学全構成員を対象とする知財教育システムを考える」
3. レポート	<p>1. はじめに、本セッションの概要が説明された。まず、大学内での知的財産教育は進歩しているが、様々な阻害要素がありカリキュラムでの必修化には至っていない現状が紹介された。その結果、社会では知財の人材が必要とされているにもかかわらず、大学側はそれに応えられていない問題が指摘された。そして、問題解消のために教育改革・改善を実行し、普遍的な知財教育を大学で行う必要がある問題意識を提起された。以上のことを踏まえて、各パネリストから産官学の取り組みが紹介され、今後の知財教育のあり方について議論された。</p> <p>2. 林氏からは、カネカの取り組みが紹介され、技術系社員に対して入社年度に応じた定期的な研修、月 2-3 回の頻度の定期的な研修、を実施している現状が紹介された。</p> <p>大学への要望として、企業側は技術系新入社員の知財教育経験の不足を問題視しており、学生を特許に触れさせ、知財レベルを向上させる施策について、提言された。</p> <p>3. 森川氏からは、大阪大学知財センターでの取り組みとして、全学生が知財教育を受講できるカリキュラムや、各学生の学習足跡を可視化・共有化する学習プロセス支援の活動が紹介された。</p> <p>また、特許庁の取り組みとして、各大学の教職員に向けた知財アドバイザーの派遣、理工学生に向けた知財テキストの検討など、が紹介された。</p> <p>4. 木村氏からは、山口大学の知財教育の取り組みとして、学部、教養、大学院における階層的教育の実施、特許事案を用いたアクティブラーニングの実施などが紹介された。また、基礎的な知財教育の強化として、ビデオ教材作成などの学習支援活動、さらに、山口大学が独自開発、運用している特許検索システムが紹介された。</p>